

国土交通省 道路局長 様



## 中期的な計画の作成にあたって

平成19年 5月 1日

福知山市長 高日 音彦



福知山市は昭和6年から上水道事業を、昭和29年から土地区画整理事業を、昭和34年から公共下水道事業を、そして昭和56年から鉄道高架を核とした福知山駅周辺地域整備事業などの都市計画事業をただひたすらに愚直なまでに推し進めてまいりました。その間、周辺の市町では人口の流出が顕著になる中、北近畿では唯一、わずかずつではありますが人口が増えてまいりました。都市基盤の整備がいかに重要か強く認識いたしております。

平成18年1月1日に周辺の3町を編入合併し84000市民の新福知山市が誕生しました。今後は少子化に伴い人口の減少は免れないものと考えますが、人・もの・情報が行き交い、当地域が今後も自立して他市町と連携・交流できる基盤づくりを進めるにあたり、以下の道路政策についてご意見を申し述べます。

### ・ 重点化を進める上で特に優先度の高い政策

#### (地域の自立と競争力強化)

市町合併に伴い市域が広大となり、周辺部から市中心地へのアクセスとしての地域の基幹道路の整備(国道9号など)は最重要であり、中心市街地の活性化への大きな推進力となる。

とりわけ、現在、推進していただいている福知山道路については早期に完了していただきたい。

医師不足など多くの問題を抱える地域から医療拠点へのアクセスや通勤・買い物など日常のくらしを支える生活幹線道路の整備(国道429号など)は、市町合併後の支援という意味においても他市町と連携・交流ふれあいができる基盤づくりとして是非強力に推し進めていただきたい。

#### (安全・安心の確保)

少子高齢化が進行するなか、これら交通弱者の安全・安心を確保するため、とりわけ危険な通学路を主とした歩道の改良や設置、幹線道路と生活道路で繰り返し事故が起こっているところ(急カーブ箇所など)の改良など交通事故対策を講じていただきたい。

大雨・大雪や地震などの災害時に、緊急避難輸送道路として国道9号が機能するために基幹道路としての整備(橋の補強、のり面防災対策など)を促進していただきたい。

- ・ 効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

(事業進捗管理の強化による事業効果の早期発現)

道路利用者や沿線住民、用地提供者の方々より「いつになったら着工するのか」「いつになったら完成するのか」といった多くの不満の声を聞きます。地方は人口の流出に少子化の追い討ちで何らかの打開策を講じなければと、地域の活性化や安全・安心なまちづくりに必死で取り組んでいます。

用地買収や埋蔵文化財調査など地元として最大限の努力をいたしますので、事業のスピードアップにより事業効果が早期に発現しますように事業の進捗管理を強化していただきたい。地域の活性化や安全・安心なまちづくりの強力な手助けとなりますし、コスト縮減も図れると考えます。

- ・ その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関する意見

地方都市では公共交通機関が崩壊しつつあり、車は欠かすことのできない生活手段であります。その保有率は京都府全体(44%)に比べ府北部の丹波・丹後地域は58%であり、年々増加の傾向にあります。その反面、道路の未整備な区間が多く、快適な車社会とはとても言い難いのが現状であります。北近畿地方のどの市町も人口流出が進み人口が減少しており、今後、高齢化が進むにつれ車への依存がより高まると考えられます。

人々が暮らしやすく、暮らしてみたいと思うまちをつくるために『道』が果たす役割はますます大きくなっています。合併が行われた地域では、道路ネットワークを強化することで、合併後の他市町とのつながりが高まるものと考えます。そこで、府県境をまたぐ峠のトンネル化については早期に事業着手が出来るように、国で事業調整を積極的に行っていただきたい。

地方の道路は『命』であり『希望』であります。